

# Salon

Vol.142 2023年1月 新春号



ホール4F壁画 ポール・ゴッアマン作「レッスン」

- CONTENTS
- 01 Prime Interview — パトリツィア・コパチンスカヤ
  - 03 Phoenix Presents — 2023年度 ティータイムコンサート  
フォルクハルト・シュトイデ ヴァイオリンリサイタル  
西岡沙樹 ピアノリサイタル—フォーレ、移ろう色彩
  - 06 Pick Up
  - 07 Essay de say — 生きた音楽の素晴らしさ — ル・ポン国際音楽祭2022赤穂・姫路を終えて—

# パトリツィア・コパチンスカヤさん



パトリツィア・コパチンスカヤはよく笑う。それは婉然とした微笑みなどではなく、甲高い哄笑に近い。あるいは随分意地の悪いことを言って無邪気に笑い声をあげて、でもすぐに声を潜めて次の話題へと逸れていく。そう彼女のヴァイオリン演奏と同じだ。威嚇的に唸りをあげていたかと思うと天上の祈りのような響きに変わり、それがブツと即物的に途切れたりする。目まぐるしい。目まぐるしくて、同時に切ない。普段の彼女の「生感」がそのまま音になっている。最近ヴァイオリン演奏だけではなく、『月に憑かれたピエロ』やリゲティの「マカーブルの秘密」のような声のパフォーマンスにも果敢に挑戦して(今回の来日では東京都交響楽団の定期で聴ける)、やはり信じられないような成果をあげているし、さらに作曲も始めたようだ。モルドヴァのツィンパロム奏者だった彼女の父親コパチンスキ氏も独特のアプローチで作曲を行ってきたのでそれも驚くようなことではないのだと思う。ともかく彼女は、今や全身で、あらゆる媒体を用いて、音楽を発散し続けている。

強力なピアニスト、ヨナーヌ・アホネンを伴う来日を前にして、今回のプログラムについて話を聞いてみた。彼女の言葉も、やはりずっと小さな爆発が起こり続けているような、不思議な魅力に満ちている。(取材・訳・構成:伊東信宏/大阪大学教授)

## 音楽には交感、コミュニケーション、予期せぬもの、驚きが必要なのです

Patricia  
Kopatchinskaja

今回の来日は2019年の春、あなたがクルレンツィスと一緒に来て以来だと思えます。その後世界はコロナ禍や戦争を経験してきました。自宅で隔離されていた頃、どんな風に暮らしていましたか?それはあなたにとって容易な時期ではなかったと思えます。

私たちのところでは二度の長いロックダウンがありました。最初の時、私は気分が落ち込み、時間ができればやろうと思っていたプランや夢の全てを諦めてしまいました。それは多分自分の自由意志で家に居ようと思ったわけではなかったからだと思います。そして多くの音楽家の友達と一緒に計画していた全ての素晴らしい演奏会やツアー、興味深いプログラムなどを諦めねばならなかったのです。

二度目のロックダウンの時、何か訓練をしないと私はこれを超えることができない、と思っていて、それで私は毎日、ヨガをすることにしました。そして長い本を読み、突然様々な音楽を作曲しました。今、アンコールで弾いている曲で、私はそれらをGhiribizziと名付けました。

バガニーニにGhiribizziという曲があるけれど、イタリア語?

そう。「気まぐれな小品」ということみたい。

コロナ禍を経て、あなたの活動は変化しましたか?音楽は以前とは違うものを意味するようになってしょうか?それとも目的は変わりませんか?

ステージの上に立てること、そしてリアルな聴衆の前で演奏できることに、以前よりもずっと深く感謝するようになりました。私はコンサートホール、そしてそこにいる人々が好きです。その息遣い、そしてその匂いさえも。人々のエネルギーが感じられるのです。これはオンラインでは味わえません。音楽には交感、コミュニケーション、予期せぬもの、驚きが必要なのです。そしてもちろん私はそれを当たり

前に与えられるものだと思わなくなりました。私たちは今も新しいパンデミックの危険にさらされているのですから。

今回のツアーではベートーヴェンの二つのソナタ、そしてシェーンベルクとウェーベルンなどが演奏されます。これはあなたの選択ですか?ベートーヴェンは以前より重要なものと感じますか?

選んだのはヨナーヌ・アホネンです。彼は全く妥協なく自分のやり方で弾ききってしまうピアニストです。

私は彼と一緒に弾くことで自分の中のリスクと革新性を広げることができました。彼は元々現代音楽の文脈の人で、クラングフォルム・ヴィーン[1985年に結成された現代音楽に重心を置くアンサンブル]などの活動で、常に作曲家たちと一緒に音楽を作ってきました。私たちの時代にどんな音楽が書かれているか、彼は全て知っています。そして同時にフォルテピアノの奏者でもあるのです。

こういう経歴を持つ人こそベートーヴェンに最高のアプローチができると思います。私たちはウィーンから最高のものを届けられると思います。

「ウィーンから」というのはどういう意味?ヨナーヌがウィーンから来る、ということですか?

ウィーンから最高の音楽を届けます、という意味。でも実際、ヨナーヌはウィーンで最高のピアニストだと思う。信じられないほど素晴らしいフィンランド出身のピアニストで、そしてウィーン訛りのドイツ語を話す。それがすごく可笑しい。

ベートーヴェンのソナタ第9番について、私はいつもラディカルな音楽家を探していたのです。特にこの曲ではベートーヴェンを正確に理解し、そしてできるかぎり挑発的に、できるかぎり赤裸々に描くことができる音楽家が必要なの。これはフランス革命の時期に書かれた音楽で、だから皇帝が名誉と権力を失い、その求心力を失ってゆく中

で書かれた。素朴な人たちも、自分たちの権利について考えるようになり、社会構造と世界秩序について考え直すようになった頃の音楽なのです。だから音楽も(革命と)同じように直接的で、クリアで、そして時に粗暴に書かれています。そこには驚きとメッセージが込められている。想像力は爆発し、空虚な美しさの中に取りかえたりしていないのです。音はお上品な人々の興味を掻き立てるためのものではなく、音楽の内容はストーリーとなりました。

ヨナーヌと一緒にやるのは、だからとても自然なこと。私たちは話し合ったりしない。ただ演奏するだけで十分なの!

私もアホネンの敏捷さと繊細さはあなたのヴァイオリンにとってもよくマッチしていると思います。どうやって彼に出会い、二人の共演はどんな風に展開しましたか?

そう、コロナ禍のおかげと言えるかな。突然新しいことができる余裕ができて、そんな時にベッカ・クーシスト[フィンランド出身のヴァイオリニスト]がヨナーヌと弾くといってくれたんです。彼はこのピアニストはあらゆる物理的制約をなくしてしまうんだって言ってました。それで私はヨナーヌと『月に憑かれたピエロ』をやりました[2021年にCD化]。あれが最初の出会いです。つまり私たちはあのシュールなテキストと音楽を通じて出会った。私は彼のピアノの正確さと、クリスタルのように透明な音が好きです。

彼と一緒にやると、とても弾きやすい。私たちは同じ音楽の言語を話しているから。彼はロマンティックなヴィブラートとべったりした音が嫌いで、私もそう。私はいつも旋律的な自由さを求めている、だから私たち二人でやるとそれが極限まで行くの。パルランド・ルバート[語るようなリズムの伸縮]のスタイルで。

パトリツィア・コパチンスカヤ(ヴァイオリン) Patricia Kopatchinskaja, violin

モルドヴァ生まれ。作曲とヴァイオリンをウィーンとベルンで学ぶ。2000年シェリング国際コンクール優勝、02年「クレディ・スイス・グループ・ヤング・アーティスト賞」ほか受賞多数。世界各地の音楽祭からも数多く招かれ、ルツェルン、ザルツブルク、ウィーン芸術週間、ロッケンハウスなどに出演。コパチンスカヤが音楽監督を務めた18年のアメリカのオーハイ音楽祭では、ルツェルンでの世界初演に続き、自身が構成したコンセプトアルバム「ディエス・イラエ」を上演し、好評を博した。録音としては、14年よりアーティストティック・パートナーを務めるセントポール室内管弦楽団との共演による「死と乙女」で18年のグラミー賞を受賞。使用楽器は英国の『The Strad』誌で「色鮮やかな音色を持つ楽器。そのヴィオラのような性質は彼女の演奏に格別な喜びを添えている」と評された、1834年製プレッセング。 <https://en.patriciakopatchinskaja.com/>

注目アーティストシリーズ81

パトリツィア・コパチンスカヤ ヴァイオリンリサイタル

2023年3月19日(日) 15:00開演

一般6,000円 友の会会員5,400円 学生(25歳以下)2,000円

■出演 パトリツィア・コパチンスカヤ(ヴァイオリン)、ヨナーヌ・アホネン(ピアノ)

■曲目 シェーンベルク:幻想曲 op.47  
ベートーヴェン:ヴァイオリンソナタ 第7番 八短調 op.30-2  
ウェーベルン:ヴァイオリンとピアノのための4つの小品 op.7  
ベートーヴェン:ヴァイオリンソナタ 第9番 長調「クロイツェル」 op.47

■チケットのお求め・お問い合わせ

ザ・フェニックスホールチケットセンター 06-6363-7999(平日10:00~17:00、土日祝休)

残席わずか



ザフェニックスホール  
友の会優先予約  
1月21日(土)  
10:00 受付開始

イーフェニックス  
E-PHX優先予約  
1月23日(月)  
10:00 受付開始

一般発売  
1月24日(火)  
10:00  
インターネット予約による  
お申込みは1月25日(水)10:00から!

\*各発売日初日は、電話予約のみのお申込みとなります。1/21(土)はティータム公演発売日のため特別営業。

# Friday 20'clock 2023年度 ティータムコンサートシリーズ [162]~[168]

友の会会員年間通し券は、とってお買い得!チケットご予約時にもご入会いただけます。

金曜の午後2時スタート。都心に立地し、抜群の交通アクセスで関西一円から多くの皆様においでいただけるホールの特性を生かし、1995年のホール開設以来、お楽しみいただいています。一流のアーティストを起用し、昼間の気やかな雰囲気、夜の演奏会にも劣らぬ上質な「生」の音楽をお届けいたします。2023年度も7公演をラインナップ。期待の若手やベルリン・フィルの奏者、そして円熟されたベテラン奏者など様々な室内楽をご用意しました。お得な年間通し券で、ザ・フェニックスホールが自信をもって贈る「スペシャル・マチネ」をどうぞご堪能ください。

いずれも金曜日  
14:00開演/13:30開場  
指定席  
※お菓子付き

年間通し券  
一般 ¥25,000  
友の会会員 (お一人様2席まで) ¥22,000  
※年間通し券・学生券は当ホールチケットセンターのみのお取り扱い  
※1公演毎のご購入も可能です

第163回 7/14 金  
一般4,500円(友の会会員4,050円) 学生(25歳以下)1,500円  
ベルリン・フィル首席奏者と名手たちが魅せるホルンと室内楽の可能性  
シュテファン・ドール、  
究極のホルン・アンサンブル

■出演 シュテファン・ドール(ホルン)、郷古廉(ヴァイオリン)、中恵菜(ヴィオラ)、横溝耕一(ヴァイオリン&ヴィオラ)、辻本玲(チェロ)、津田裕也(ピアノ)  
■曲目 モーツァルト:ホルン五重奏曲 変ホ長調 K.407  
ドヴォルザーク:ドゥムキー・トリオ(原曲:ピアノ三重奏曲第4番 短調「ドゥムキー」 op.90)  
モーツァルト:ホルン協奏曲 第3番 変ホ長調 K.447(ホルンと弦楽四重奏編)  
ブラームス:ホルン三重奏曲 変ホ長調 op.40 (予定)



「ホルンの王」とも称される世界最高峰のホルン奏者シュテファン・ドールさん。そんな彼がプログラムしたのはホルンを中心とした室内楽。代表曲としてブラームスの「ホルン三重奏曲」、モーツァルトの「ホルン五重奏曲」が有名ですが、今回はそれだけではなく、ピアノ三重奏曲の名曲「ドゥムキー」をホルン三重奏曲に編曲してお届けします。また本コンサートで最も注目して欲しいのは最高レベルの共演者たち。皆さんドールさんと演奏できるなら、そうそうたる奏者が集まってくれました。このメンバーによる室内楽というだけでなく豪華。今回限り二度とは見られない共演になるかもしれません。お見逃しなく!

第162回 5/26 金  
一般3,500円(友の会会員3,150円) 学生(25歳以下)1,000円  
晩年のシューベルトが見た夢も美しい夢の行方  
寺田悦子&渡邊規久雄デュオリサイタル  
シューベルティアーデ  
〜シューベルト 奇跡の1828年〜

■出演 寺田悦子、渡邊規久雄(以上ピアノ)  
■曲目 シューベルト:幻想曲 へ短調 D940 op.103  
シューベルト:ロンド 長調 D951 op.107  
シューベルト:アレグロ「人生の嵐」 D947 op.144  
シューベルト:弦楽五重奏曲 八長調 D956(ヒューゴ・ウルリッヒによるピアノ連弾版) (予定)



連弾によるオール・シューベルト・プログラム。演奏する曲は全てシューベルトが亡くなった年に作曲されています。シューベルト最後の年は奇跡の1828年と呼ばれ、「白鳥の歌」「ピアノソナタ19番、20番、21番」「ミサ曲第6番」など代表作が次々と作曲されました。本演奏会では連弾曲の傑作「幻想曲 へ短調」をはじめ、奇跡の年に産み出された連弾曲を演奏いたします。メインはシューベルトの最高傑作と名高い「弦楽五重奏曲」をピアノ連弾でお届けします。幾重に重なるシューベルトの甘美な旋律と響きがどのように生まれ変わるのか、お楽しみください。

第164回 10/6 金  
一般3,500円(友の会会員3,150円) 学生(25歳以下)1,000円  
世界を圧倒するスーパー・ギタリスト初登場!  
ラファエル・アギーレ ギターリサイタル

■出演 ラファエル・アギーレ(ギター)  
■曲目 J.S.バッハ:無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ 第2番 二長調 BWV1004より「シャコンヌ」  
ショパン:「雨だれ」24の前奏曲集より 第15番 op.28-15  
パコ・デ・ルシア:月に映えて ほか (予定)



ラファエル・アギーレはスペイン出身で、ギターコンクールの最高峰である「フランシスコ・タレガ国際ギターコンクール」優勝をはじめ13の国際コンクールで優勝した経歴を持つスーパーギタリスト。“神の祝福を受けたギタリスト”と称されるように、卓越した技術、他に類を見ない音楽性を有する唯一無二の存在。特に自国スペインのフラメンコ音楽を得意とし、その演奏は世界中で絶賛されています。今回はフラメンコをはじめ、ギターならではの名曲をたっぷり演奏頂きます。これまでギターを聞いたことがない人にこそ聴いて欲しいプログラムとなっています。この機会に是非。

## ホール主催・共催・協賛・協力公演チケットのお申込み方法

06-6363-7999  
土・日・祝日を除く平日の10:00~17:00  
1/21(土)はティータム発売日のため特別営業

■ザ・フェニックスホール友の会優先予約  
・ザ・フェニックスホール友の会会員様の優先予約日です(電話予約のみ)。  
・主催公演1公演につき会員お1人様2枚まで1割引でお求めいただけます。チケット購入の際、枚数制限はありませんが、3枚目以降は一般価格となります。  
・友の会への入会をご希望の方は、チケットのお申込み時にお電話でお申しつけください。同時に優先予約をお受けすることができます。その際、年会費1,000円が別途必要となります。

■E-PHX(イーフェニックス)優先予約  
・E-PHX(イーフェニックス)にご登録の方の優先予約日です(電話予約のみ)。  
・チケット購入の際、枚数制限、割引はありません。  
・事前にザ・フェニックスホールホームページ、ホール会員のページからご登録ください。お電話での登録はできません。

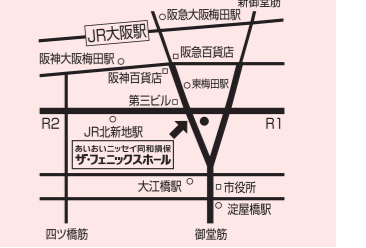
■一般発売  
・一般発売日は、電話予約のみのお申込みとなります。  
・チケット購入の際、枚数制限、割引はありません。

https://phoenixhall.jp/  
チケットセンターのページからお申込みください

■インターネット予約(主催公演のみ)  
・ザ・フェニックスホールホームページ、チケットセンターのページからお申込みください。  
・チケット予約フォームに記載のない公演につきましてはおそれ入りますが電話でお問合せください。  
・ホームページ更新の都合により、売表示のない公演でもお申込み時には完売となっていることもございます。  
・学生券のインターネットによるご予約は受付いたしておりません。  
・チケットご予約フォーム送信後、営業日3日以内に座席の有無、座席番号、入金方法につきまして確認メールをお送りいたします。

直接のご来店による  
お申込み

・ザ・フェニックスホールチケットセンターはホール建物8階、エリベーターを降りて廊下右手です。



### チケットお申込み後のお受け渡し方法

電話予約後に郵便振込をしていただき、入金確認後にチケットをご郵送させていただきます。皆様のお手元にチケットが届きますのはご入金をいただいてから約10日後となります。その際、振込手数料はお客様にてご負担ください。尚、郵送は簡易書留(一律420円)のみとさせていただきます。

振込口座 00940-0-95351 加入者名 ザ・フェニックスホール

第165回 11/17 金  
一般3,500円(友の会会員3,150円) 学生(25歳以下)1,000円  
モーツァルトのスペシャリスト、詩人の傑作に挑む  
菊池洋子 ピアノリサイタル

■出演 菊池洋子(ピアノ)  
■曲目 モーツァルト:幻想曲 二短調 K.397  
モーツァルト:ピアノソナタ 二長調 K.311  
モーツァルト:フランス歌曲  
「ああ、お母さん、あなたに申しませう」による12の変奏曲 K.265  
ショパン:子守歌 変二長調 op.57  
ショパン:ピアノソナタ 第3番 短調 op.58 (予定)



日本人初のモーツァルト国際コンクールの覇者!そして稀代のモーツァルト弾きとして名高い菊池洋子さんがザ・フェニックスホールに初登場!ソロや室内楽、国内外の主要オーケストラとの共演など、精神的な活動もされている、今や注目を集めるピアニストの一人です。今回は菊池さんがライフワークとするモーツァルト、そしてショパンと2人の作曲家を取り上げます。日本では「キラキラ星変奏曲」と呼ばれている名曲やメインにはヴィルトゥオーソ的な技巧を要する壮大なショパンのピアノソナタで締めくくります。現在ウィーン在住の菊池さん、ウィーンでも活躍した2人の作曲家の名曲がもつ煌びやかな音の響きをご堪能ください。

第166回 12/15 金  
一般3,500円(友の会会員3,150円) 学生(25歳以下)1,000円  
ドイツの実力派ヴォーカル・アンサンブルと極上のクリスマス  
聖なるア・カペラの響き  
〜クアルトナル・クリスマスコンサート〜

■出演 ミルコ・ルーデヴィッチ、ジョー・ホルツワース(以上テノール)、クリストフ・ベーム(バリトン)、ゼンケ・タムス・フライアー(バス)  
■曲目 グレゴリオ聖歌:喜び給え  
J.S.バッハ:優しくも愛らしき  
ハーバート・ヒューズ:ダウン・バイ・ザ・サリーガーデン  
ピーター・セテラ/デイヴィッド・フォスター:素直になれなくて  
クリスマス・キャロル:もろびと声あげ ほか(予定)



クアルトナルは、ドイツで活躍する今最も注目されるア・カペラ男声グループです。2006年「ドイツ国際合唱コンクール」ヴォーカル・アンサンブル部門優勝。2012年ドイツで開催されたア・カペラ・コンテストと、スペインで開催された「トロサ国際合唱コンクール」で聴衆賞及び審査員賞を受賞するなど実力は折り紙付き。レパートリーは非常に幅広くルネサンス音楽、ロマン派、男声合唱宗教曲、ドイツ民謡、そして世界各国のポップスまでをカバー。今回はクリスマス時期にコンサートが開催されることから、世界各国のクリスマスにちなんで名曲をお届けします。

第167回 2024 1/19 金  
一般3,500円(友の会会員3,150円) 学生(25歳以下)1,000円  
ジュネーヴ国際音楽コンクール覇者!世界が認める若きチェリストの今  
上野通明 チェロリサイタル

■出演 上野通明(チェロ)、北村朋幹(ピアノ)  
■曲目 J.S.バッハ:ヴァイオラ・ダ・ガンバ・ソナタ 第1番 長調 BWV1027  
フォーレ:チェロソナタ 第2番 短調 op.117  
ベートーヴェン:チェロソナタ 第5番 二長調 op.102-2  
ブラームス:ヴァイオリンソナタ 第1番 長調「雨の歌」 op.78 (予定)



上野通明さんが、2021年ジュネーヴ国際音楽コンクールで日本人初・チェロ部門1位に輝いたことは記憶に新しく、若干27歳にして注目の逸材です。ザ・フェニックスホールへの登場は2度目。ヴァイオリン奏者の今井信子さんに将来がもっとも期待される桐朋の高校生カルテットとして見いだされ、2013年に「エル四重奏団」として登場。今回は信頼するピアニスト・北村朋幹さんと共にチェロリサイタルとしてロマン派を中心にお届けします。ブラームスとベートーヴェンは二人で取り組んでいる楽曲で、ブラームスの「雨の歌」はチェロソナタとしては二長調で演奏されることが多いですが、今回は原曲の二長調で演奏します。彼らの音楽の歩みを見届けてください。

第168回 2024 2/9 金  
一般3,500円(友の会会員3,150円) 学生(25歳以下)1,000円  
次代を彩る若き才能の花ひらく  
辻彩奈 ヴァイオリンリサイタル

■出演 辻彩奈(ヴァイオリン)、萩原麻未(ピアノ)  
■曲目 ラヴェル:ヴァイオリンソナタ 短調「遺作」  
フォーレ:ヴァイオリンソナタ 第1番 長調 op.13  
ショーンソン:詩曲 op.25  
フランク:ヴァイオリンソナタ 長調 (予定)



今や若手ヴァイオリニストの筆頭として人気・実力ともに兼ね備えた辻彩奈さんがついにザ・フェニックスホールに登場します。モントリオール国際音楽コンクールを18歳で優勝して以来、飛ぶ鳥を落とす勢いで活躍は周知の通りです。そしてピアノ演奏はジュネーヴ国際コンクールで優勝した萩原麻未さん。そんな二人が演奏する今回のプログラムは名曲揃いのオール・フレンチ・プログラム。特にショーンソンの「詩曲」、フランクの「ヴァイオリンソナタ」はヴァイオリン曲の名曲の中の名曲です。世界のコンクールを制した二人による最高のアンサンブルをお楽しみください。

■注目アーティストシリーズ83

2023年  
6月10日(土)

15:00開演 指定席  
一般¥4,500(友の会会員¥4,050)  
学生(25歳以下)¥1,500

ウィーン・フィルの偉大なるコンサートマスター降臨!  
極上の音色でヴァイオリンは歌う!!

フォルクハルト・シュトイデ  
ヴァイオリンリサイタル

出演 フォルクハルト・シュトイデ(ヴァイオリン)、三輪郁(ピアノ)  
曲目 モーツァルト:ヴァイオリンソナタ 二長調 K.306  
ブラームス:ヴァイオリンソナタ 第2番 イ長調 op.100  
チャイコフスキー:懐かしい土地の思い出 op.42  
プロコフィエフ:「ロメオとジュリエット」op.64 より(構成:フォルクハルト・シュトイデ)

フォルクハルト・シュトイデさんは、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団のコンサートマスターとして2000年から現在まで20年以上に渡り、誰もが美しいと認める伝統のサウンドを支えてきました。その一方でシュトイデ弦楽四重奏団やヴァイオリンとピアノのデュオなど室内楽にも積極的に取り組まれています。最近ではトヨタ・マスター・プレイヤーズ・ウィーンや広島交響楽団などで、指揮者なしでベートーヴェンやブラームスのヴァイオリンコンチェルトに取り組むなど非常に幅広い活動を展開しています。

シュトイデさんの演奏はウィーン・フィルならではの美しい音色が特徴であり、ソロでも室内楽でもその音は唯一無二であることは間違いありません。今回プログラムされているブラームスのヴァイオリンソナタ第2番ではその美音を存分に堪能していただきたいと思います。ピアニストはウィーンを拠点に活躍し、ウィーン・フィル奏者から全幅の信頼を寄せられている三輪郁さん。シュトイデさんとの絶妙なアンサンブルにご期待ください。



■フェニックス・エヴォリューション・シリーズ104

主催 パステル音楽企画

2023年  
5月30日(火)

19:00開演 自由席  
一般前売¥3,000(友の会会員¥2,700)  
一般当日¥3,500(友の会会員¥3,150)  
学生(25歳以下)前売¥1,500  
学生(25歳以下)当日¥2,000

《ノクターン全13曲》と《即興曲全5曲》による、  
珠玉のオール・フォーレ・プログラム!

西岡沙樹 ピアノリサイタル  
ーフォーレ、移ろう色彩

出演 西岡沙樹(ピアノ)  
曲目 フォーレ:ノクターン(全13曲) 即興曲(全5曲)

2024年に没後100年を迎えるフランスの作曲家、ガブリエル・フォーレ(1845-1924)。そのメモリアルイヤーの前に、彼が生涯にわたって生み出したノクターン全13曲を通し、一人の作曲家の作風の変遷をたどる充実のプログラム。また、調性と関連づけて各所に散りばめられた即興曲全5曲が、流れにアクセントを添えます。フォーレ特有の魅力でもある、決して派手な分かりやすさではないけれど耳を澄ますことで初めて気付くような、繊細なハーモニーの移ろいを存分に味わってみてはいかがでしょうか。私たちににとっての一年や数ヶ月、あるいはわずか数日か人生に大きな変化をもたらすように、時間の経過と共に変わりゆく彼の人生の浮き沈みという“生”の移ろいにも目を向け、ご自身の生きてきた道りに思いを馳せながら、フォーレ音楽の世界をぜひご堪能ください。かつて彼が学長を務めたパリ国立高等音楽院でも研鑽を積んだ西岡沙樹が、音の色彩で魅了します。



あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール協賛公演のご案内 ザ・フェニックスホール友の会会員の方には割引特典があります。当日券をお買い求めの際は会員証をご提示ください。

協賛公演 “KCM Concert at The Phoenix Hall, Osaka”～関西圏の最大拠点 梅田で展開する芸術音楽～ 主催 コジマ・コンサートマネジメント  
“偉大な芸術家の思い出に”

発売中 2023年2月13日(月) 19:00開演 指定席 前売・当日¥5,500(友の会会員¥4,900) ※友の会割引は前売のみ。限定数。

出演 木村悦子(ヴァイオリン)、マーティン・スタンツェライト(チェロ)、小鷲寛二(ピアノ)  
曲目 ショスタコーヴィチ(ダヴィッド・パシク編):  
ヴァイオリンとチェロのための4つのミニアチュア  
グリエール:ヴァイオリンとチェロのための8つの小品 op.39  
チャイコフスキー:ピアノ三重奏曲 イ短調「偉大な芸術家の思い出に」op.50

チャイコフスキーの親友、ピアニストのルビンシテインが1881年に死去。その親友の死を悼み1882年に作曲した“偉大な芸術家の思い出に”を名手たちが奏でます。親友との思い出を綴った音楽をどう表現するかどうぞお聴きください。



協賛公演 細川千尋ジャズ・トリオ Broadway Jazz Grooves

発売中 2023年2月25日(土) 14:00開演 指定席 前売・当日¥5,500(友の会会員¥5,000)

出演 細川千尋(ピアノ)、井上陽介(ベース)、セバステイアン・カプティン(ドラム)  
曲目 ワン(「コーラス・ライン」より)  
アナザー・デイ・オブ・サン(「ラ・ラ・ランド」より)  
ミリオン・ドリームズ(「グレイテスト・ショーマン」より)  
ミュージック・オブ・ザ・ナイト(「オペラ座の怪人」より)  
メモリー(「キャッツ」より)  
チム・チム・チェリー(「メリー・ポピンズ」より) ほか

テクニックとセンスに定評のある細川千尋。今回は、ベースに井上陽介、ドラムにセバステイアン・カプティンを迎えトリオ編成でお届けする。新たにジャズアレンジされたミュージカルナンバーを初披露!細川千尋ピアノトリオが繰り広げる音世界をお見逃しなく!



主催 日本コロムビア株式会社

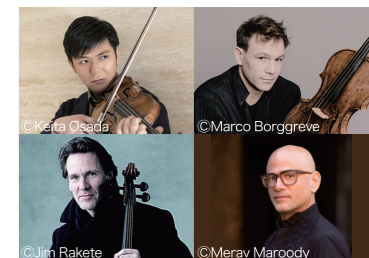
協賛公演 ベルリン・フィルのメンバーによる室内楽

発売中 2023年3月17日(金) 19:00開演 指定席  
S席:一般前売・当日¥9,000(友の会会員¥8,500) A席:一般前売・当日¥8,000(友の会会員¥7,500)  
※A席は2階席左右の端ブロックです。※友の会割引は前売のみ。限定数。

出演 榎本大進(ヴァイオリン)、アミハイ・グロス(ヴィオラ)、  
オラフ・マニング(チェロ)、オハッド・ベン＝アリ(ピアノ)  
曲目 ベートーヴェン:ピアノ四重奏曲 変ホ長調 WoO.36-1  
フォーレ:ピアノ四重奏曲 第2番 ト短調 op.45  
ブラームス:ピアノ四重奏曲 第2番 イ長調 op.26

お待ちせいたしました!ベルリン・フィルの精鋭たちによるベートーヴェン、フォーレ、そしてブラームス。春はこの期待の公演をお聴き逃しなく!!

主催 コジマ・コンサートマネジメント



協賛公演 ファイブ・スターズシリーズ in ザ・フェニックスホール  
徳永兄弟<フラメンコギターデュオ> アコースティック・コンサート  
NEO FLAMENCO

発売中 2023年4月1日(土) 14:00開演 指定席 前売¥4,000(友の会会員¥3,600) 当日¥4,500(友の会会員¥4,050) ※公演中止となった2022年10月9日(日)の振替公演です。

出演 徳永康次郎、徳永健太郎(以上フラメンコギター)  
曲目 チック・コリア:SPAIN  
ビゼー:「カルメン」より  
徳永兄弟:Viajero del alma 魂の旅人  
Buleria de Padre プレリアデパドレ ほか

結成10周年の2022年からクラシックコンサートホールにもステージを広げ、より凝縮された編成で二人の今の音をお届けする。“ニューフラメンコ”というニュー・アルバムのタイトル通り、フラメンコのスタンダード楽曲から、クラシック、ラテン音楽、ケルト音楽、ロックなど、ジャンルを問わず様々なリズムの音楽を、彼らならではのアレンジにより“情熱的”で“激しく切ないリズム”に胸がうずくような音楽として繰り広げ、“新しいジャンル”が誕生する。

主催 日本コロムビア株式会社



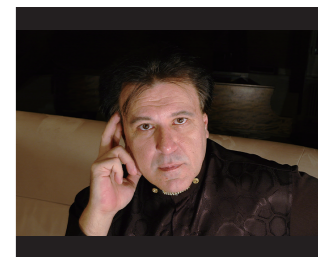
協賛公演 “KCM Concert at The Phoenix Hall, Osaka”～関西圏の最大拠点 梅田で展開する芸術音楽～  
アンドレイ・ガヴリーロフ バッハを弾く

発売中 2023年4月12日(水) 19:00開演 指定席  
S席:前売・当日¥7,000(友の会会員¥6,000) A席:前売・当日¥4,500(友の会会員¥4,000)  
※A席は2階席左右の端ブロックです。友の会割引は前売のみ。限定数。

出演 アンドレイ・ガヴリーロフ(ピアノ)  
曲目 J.S.バッハ:  
平均律クラヴィア曲集 第1巻(24の前奏曲とフーガ 全曲 BWV 846-869)  
フランス組曲 第5番 ト長調 BWV816

1974年 弱冠18歳チャイコフスキー国際コンクール優勝。巨匠リヒテルの代役としてザルツブルク音楽祭に登場して大成功。輝かしい栄光の後に到来した悲劇的な苦悩を克服して完全復活!アンドレイ・ガヴリーロフがバッハを弾きます。どうぞお聴きください。

主催 コジマ・コンサートマネジメント



協賛公演 “KCM Concert at The Phoenix Hall, Osaka”～関西圏の最大拠点 梅田で展開する芸術音楽～  
松浦奈々 パリへのオマージュ

発売中 2023年4月25日(火) 19:00開演 指定席  
S席:前売・当日¥5,000(友の会会員¥4,500) A席:前売・当日¥2,500(友の会会員¥2,000)  
※A席は2階席左右の端ブロックです。 ※友の会割引は前売のみ。限定数。

出演 松浦奈々(ヴァイオリン)、坂野伊都子(ピアノ)  
曲目 ラヴェール:ヴァイオリンソナタ 遺作 ドビュッシー:ヴァイオリンソナタ  
プーランク:ヴァイオリンソナタ(フランシス・プーランク没後60周年)  
ショーン:詩曲 op.25 フランク:ヴァイオリンソナタ イ長調

日本センチュリー交響楽団コンサートマスター 松浦奈々によるフランス作曲家の作品だけを集めたプログラム。名手による演奏をどうぞお聴きください。

主催 コジマ・コンサートマネジメント



協賛公演 辻本玲 チェロリサイタル

1/11(水) 発売中 2023年4月26日(水) 19:00開演 指定席  
一般前売¥3,500(友の会会員¥3,150) 一般当日¥4,000(友の会会員¥3,600) 学生前売¥1,500 学生当日¥2,000

出演 辻本玲(チェロ)、津田裕也(ピアノ)  
曲目 J.S.バッハ:ヴィオラ・ダ・ガンバ・ソナタ 第3番 ト短調 BWV1029  
ブラームス:チェロソナタ 第2番 へ長調 op.99  
メンデルスゾーン:チェロソナタ 第1番 変ロ長調 op.45  
ヒンデミット:無伴奏チェロソナタ op.25-3

ピアニストの津田裕也さんをお迎えて、オール・ドイッ・プログラム!バッハから始まり、津田さんと絶対弾きたかったメンデルスゾーン1番のソナタ、ロマン派のチェロソナタの最高傑作のブラームスの2番のソナタ。音楽の真髄を感じさせてくれる津田さんの演奏は憧れであり、今回の共演がすごく楽しみです。そして不思議な世界観のヒンデミットの無伴奏チェロソナタを加えています。

主催 フィリー企画



## 生きた音楽の素晴らしさ —ル・ポン国際音楽祭2022赤穂・姫路を終えて—



ル・ポン国際音楽祭2022赤穂・姫路は、10月2日(日)から9日(日)まで赤穂公演2回、姫路公演4回のコンサートを行い、盛況のうちに幕を降ろしました。

開催にあたり、榎本大進音楽監督は『3年ぶりに「ル・ポン」という特別なステージで生きた音楽の素晴らしさをお届けできることを、私達はとても嬉しく思っている。コロナの影響により中止となった2年間は辛く悲しい思いをしたが、同時に生の公演がいかに大切なものであるかをアーティスト全員が実感した。生演奏の空気感はインスピレーションやアイデアの糧となります。3年間充電してきた私達のエネルギーが今どれほど溢れているかを想像してほしい。音楽の花火があちらこちらであがることでしょう。』とその再開に掛ける意気込みを語った。

音楽祭への参加アーティストは、ヨーロッパを中心に活躍している精鋭15名。6回のプログラムはすべて異なる曲で、初日の公演ではエマニュエル・パユ、ポール・メイエなどがヴィルトゥオーソの面目躍如たる演奏や、フランクのピアノ五重奏曲では大進氏たちの美しさと火花の散るような熱演に、ブラボーを禁止された聴衆からはひととき大きな拍手とスタンディングオベーションが鳴りやまず、最高潮の盛り上がりを見せました。

ご年輩のご婦人は「3年間の自粛後、生の音楽がこんなに嬉しく素晴らしいものだ」と実感でき、東京から来た甲斐があった。」と涙ながらに語られた。

ル・ポン国際音楽祭は2005年秋、若手実力派ヴァイオリニストとして活躍していた榎本大進氏からの申し入れを赤穂市が受け入れ、2007年に第1回が開催されました。

ヨーロッパでは、演奏家の出身地やゆかりの地で市民手作りの音楽祭が開催されており、彼が招かれていたフランスのサロン・ド・プロヴァンス音楽祭【音楽監督 エリック・ル・サーージュ(Pf) ポール・メイエ(Cl)エマニュエル・パユ(Fl)の3氏】のように、クラ



©Keita Osada, Ussa Mondo A&D

### ■公演情報

ル・ポン国際音楽祭 赤穂・姫路 2023 情報

ル・ポン国際音楽祭 赤穂・姫路 2023については、赤穂会場4公演、姫路会場2公演にて来秋開催を予定しております。

公演詳細は、2023年5月頃お知らせします。皆さまのご来場お待ちしております。

シック音楽が市民生活の中に自然に溶け込むような音楽祭を開きたいとの希望からでした。

大進氏の音楽祭に対する基本的スタンス

1. クラシック音楽を市民、特に将来を担う子どもたちが気軽に楽しめる。
2. アーティストは世界の実力派を招く。
3. 市民(聴衆)に身近なコンサートとするため、ランチ程度の入場料とする。

参加アーティストはノーギャラ、入場料は格安の1,000円、また親子チケットを設けて2名1,000円の室内楽に特化した音楽祭が実現しました。

また、プログラムもテーマを設けたり、同じ曲を同じメンバーが演奏することを避けるなどの配慮をし、一期一会の音楽に接することのできる音楽祭とした。

さらに、赤穂城跡、姫路城二の丸、書写山圓教寺などのコンサートは、日頃味わうことの出来ない空間でもあります。

コロナ感染拡大により、一番大きく影響された事象の1つにライブ公演があります。大進さんの言を待つまでもなくコンサート会場で聴く音楽は、アーティストと聴衆が皮膚感覚で感動を共有できる数少ない素晴らしい場所です。しかし、一旦遠のいた聴衆はwithコロナの掛け声を聞けども、未だ戻っていない厳しい現実があります。

ライブは元気の活力剤、音楽文化の担い手であるアーティスト支援でもあることを皆さんと共にお声掛けし、コンサートに足を運んでもらいたいものです。

3月には、ザ・フェニックスホールで榎本大進さんの公演も予定されていると、お聞きしています。

彼の新しいパートナーが1744年製「ガルネリウス・デル・ジェス(ド・ベリオ)」となって1年弱、「弾きこなすには2年位かかるかも」とは大進さんの言ですが、その過程も見届けつつ、いつも全力投球の彼の音楽を皆さんと楽しみたいものです。

(赤穂国際音楽祭実行委員会 副会長 岡島三郎)

